關東大地震ニ關スル本會ノ調査事業概要

我ガ震災豫防調査會ガ明治二十五年ニ創設セラレタ以來、年ヲ閲スルコト既ニ三十餘年、其間、地震ノ純理的講究ニ、將タ建築土木等ノ耐震的構造法ノ研究ニツキ、極メテ有益ナ成績ガ擧ゲラレタコトハ、内外ノ識者ガ等シク認メテ居ル所デアルガ、此等ノ成果ハ既ニ和文報告書九十九號、歐文報告書二十五號、歐文記要十一卷等ニヨリテ發表セラレ、世間ヲ裨益シテ居ルコト少クナイノデアル、折柄今回ハ前代未聞トモ稱スベキ關東大震災ガ突發シタ爲メ、我ガ會ハ更ニ其精鋭ヲ盡シテ日夜兼行調査ノ業ニ當リ、一歲半ヲ經テ漸ク其成績ヲ上梓シ得ルノ機運ニ辿リ著イタ、自分ハ其事務ニ携ハルコトノ光榮ヲ有シテ居ルガ爲メニ、上梓前ニ各委員カラ提出セラレタ原稿ヲ閲覽スルコトガ出來、萬感ヲ禁ズルコトガ出來ナカツタ、特ニ自分ガ感激ニ堪ヘナカツタノハ夫ノ物資缺乏ノ際、斯程マデニ徹底シタ調査ヲ能ク强行セラレタコトデアル、惟フニ各委員ハ印刷費ノ窮乏ヲ察セラレテ、今回ノ報告ハ事實ノ忠實ナ蒐輯ニ重キヲ措カレ、論議推究ノ割愛セラレタ所モ多イコトデアラウガ、ソレデモ其材料ハ豫定ノ三倍以上ニモ達シタノデ、事務員トシテハ此點ニツキ愉快ト感謝トノ念ガ湧出スルト同時ニ一種ノ苦痛ヲ感ズル次第デアツタ、然シナガラ其内容ノ重大ナ獨創的價値ヲ顧ミルトキ、此等ノ報告ハ一言半句モ削減スルコトナク、如何ナル困難ヲ侵シテモ完璧トシテ出版シナクテハナラヌト固ク決心シタ次第デアル、斯クシテ本報告第百號ハ吾人ガ後世子孫ニ遺スニ足ルベキ唯一ノ大震火災誌デ有リ得ルト思フノデアル。

本報告ハ便宜ノ爲メニ(甲)地震篇、(乙)地變及ビ津浪篇、(丙)建築篇、(丁)建築以外ノ工作物篇、(戊)火災篇ノ五部門ニ大別シテ印刷シタ、此ノ結果ニ到達スルニ、各委員ガ如何ニ苦心努力セラレタカハ其ノ内容ヲ熟覽セラレザル限リ、諒解ヲ得ルコトハ困難ト思フガ、然シナガラ其大體ニ至ツテハ、會記事ニヨツテモ分ルコトト思フ、以下會ノ記事ヲ掲ゲルコトニスル。

(今村幹事)

會記事

大森會長事務取扱兼幹事ハ汎太平洋學術會議ニ列席ノ爲メ、大正十二年七月十日、後事ヲ今村委員ニ託シ、同日午前、東京驛出發、濠洲ニ向ハレタ。

九月一日大震ニ際シ、文部省ニ於ケル事務所ハ、書棚ノ顚倒、壁ノ龜裂剝落等ニテ、外ニハ何等ノ損害モナク、事務員ハ一時屋外ニ避難シ、震後三十分位デ室ニ戻リ、書棚ノ顚倒ヲ復舊シ、重要書類ヲ整理シテ、再ビ屋外ニ出タ、省内土藏ノ破壞セルモノモアリ、各棟屋根瓦ハ墜落シ、二階硝子窓ハ破損シ、到ル所混亂ヲ來タシ、食堂ハ遂ニ開クコトガ出來ナカツタ程ノ狀態デアツタ、尙ホ當日ハ土曜日ナリシト、又火災ノ

如キハ自火ニ非ザル限リ、所在地ノ關係上何人モ類燒ヲ想像シナカツタ爲メ、漸次退廳スルニ至ツタ、然シナガラ意外ニモ猛火ハ各方面カラ起リ、夜ニ至リ、商科大學ヲ襲ヒ、如水會館ヲ燒燼シ、次ニ飛火ハ文部省ニ散落シ、瓦ノ搖リ落トサレタ屋上ハ飛火ヲ浴ビ、消防力ナクシテ、遂ニ全建物ガ灰燼ニナツテ仕舞ツタ、此時、東京帝國大學地震學教室附屬一橋觀測所モ亦同樣ノ災厄ニ罹リ、本會所有ノ器械ヲ一部燒失セシメタ。

此災厄ニ依リ本會所屬官有財產トシテ燒失ニ歸シタモノハ

電話架空裸線(正午報用麻布飯倉天文臺カラ、東京帝國大學地震學教室間架設ノ分、內)
亙長一里五丁四十間　延長二里十一丁二十間　柱七十五本　價格一、三三四●一四円

同物品ニシテ燒失ニ歸シタモノ

一橋觀測所ニ於テ　器械類十點　價格約八、〇五〇●〇〇

文部省事務所ニ於テ器具類三十五點　同一、〇〇〇●〇〇

同　消耗品十種　同　一〇〇●〇〇

其他事務用重要書類及備付本會報告、紀要、官報等全部

唯此災厄ノ不幸中最モ幸トスル所ハ東京帝國大學內地震學教室及本會所屬ノ同所耐震家屋等ガ辛ウジテ燒失ヲ免カレタガ爲メ調査上重要器械及記錄等ノ殘存セルト、豫算ニ對スル支出及殘額、其他債權債務ノ如キガ、文部省ニテ搬出シタ帳簿及ビ事務員ノ記憶等ニ依ツテ明瞭トナリ、事業ヲ繼續シ調査ヲ進行セシメ得タコトデアル。

事務室ガ右樣ナ次第デアツタガ爲メ、大震後、本會ノ本部ハ自然ニ地震學教室ニ移ツテ仕舞ツタ、該教室ニハ本會ノ重要ナ印刷物ノ殆ンド全部、筆記書類ノ一部、器械器具ノ大部分ガ保管サレテアルノミナラズ、本會事業ノ大部分ガ同教室ニ於テ遂行セラレテアツタノデ、其等ノ材料ニ依リ、今村委員ハ震後三十分間內ニ地震觀測ノ結果ヲ發表シ、一般ノ注意ヲ引クコトガ出來タノハ仕合セデアツタ、該教室並ニ本會所有ノ耐震家屋ハ構內火災ノ爲メ、類燒ノ危險ニ瀕シタガ、教室員特ニ本會所屬員ノ奮鬪消防ノ結果、漸ク之ヲ取止メルコトガ出來タ、爾後所員ハ日夜兼行觀測ノ任ニ當リ、大震災調査上最モ價値アル材料ヲ得タノデアルガ、此事ニ就イテハ別ニ今村委員保田囑託員カラノ報告ガアルカラ、此ニハ之ヲ省クコトニスル。

九月三日ニ至リ、今村委員ハ觀測ノ結果ヲ更ニ次ノ通リ發表シタ。

大地震發生ニ際シ、自分ハ取敢ズ觀測ノ大體ヲ發表シタ、卽チ發震ハ午前十一時五十八分四十五秒デ、震原ハ東京ノ南二十六里卽チ伊豆大島ノ東方四、五里ノ海底ト推定スルコト、サウシテ振幅四寸ニ達スル程ノ振動ヲモ示シテ居ルカラ東京デハ安政以來ノ大地震デアルガ、若シ震原ノ推定ニ誤リガナカツタラ、一時間內ニ或ハ津浪ヲ伴フカモ知レヌ、ソレデモ波ハ相模灣ノ內、小田原方面ノミニ著シク、東京灣ハ必ズ無事デアラウ、又今後多少ノ餘震ハ繼續センモ、大震ハ決シテ重ネテ起ルマジキコト等デアツタ。其後觀測ニ就テハ教室員ノ獻身的努力ニ依ツテ、直チニ五、六ノ器械ヲ修理シ、不斷觀測ヲ辛ウジテ繼續シ得タモノ、、發震三時間ノ後ニハ火災

教室ニ薄リ、屋上モ三回燃出シタ位、又附屬觀測室モ夜ニ入ルマデニ數回火攻メニ遭ツテ、研究ヲ進ムル餘裕モナカツタガ、今日ニ至ツテ漸ク教室内ダケノ第二回調査ヲ纏ムルコトガ出來タ。

初動ノ方向ハ北ノ上方動、初期微動繼續時間十三●九秒ナルコト、餘震ノ強キモノモ亦大抵之ニ似テ居ルノデ、震原ノ推定ハ前回ト變リハ無イガ、振幅ニ付テハ六寸程ノ波動ガアツタコトヲ附加ヘテ置ク、然シ振幅ノ週期ハ二秒若シクハ其以上デ、振動比較的ニ緩漫デアツタカラ振幅ニ於テハ安政ノ場合ニ優リ、震力ニ於テハ寧ロ稍〻輕カツタカト思ハレル。

餘震ニハ二種アルコトヲ誰デモ氣附カレルコトト思フ。第一種ハ緩漫デ震動稍〻長ク續クモノ、第二種ハ急デ短ク、多ク鳴動ヲ以テ始マルモノデアル。前者ハ最初ノ大地震ノ同屬デアルガ、後者ハ利根川、東京灣式デアツテ、今回ノ大地震ノ爲ニ誘發セラレタモノデアル。

次ニ餘震ニ就テハ、勿論別ニ他ノ大地震ノ發生ヲ妄信シテ、之ヲ危惧スルコトノ謂レナキ理由ヲ述ベル。

餘震ハ此兩日間經驗セラレタ通リノコトデ、大サト數トニ於テ次第ニ衰退スルノデ、斯ノ如キ順序ヲ取ルコトハ、大地震ノ一般ノ法則デアルシ今回ノ餘震ノ最大ナルモノデモ、其強サ最初ノ大地震ノ三分ノ一程度ニシカ達シナイ無害ノモノデアルカラ、之ヲ危惧スル必要ハナイ。又別ニ他ノ大地震ヲ惹起スコトハナイカトノ問題モ起ルガ、前記餘震ノ一發生地タル利根川東京灣地震帶ハ、慶安二年川崎沖大地震、文化九年神奈川程ケ谷大地震、安政二年江戸大地震（震原ハ東京ノ東北方二三里ノ處）明治二十七年强震（震原ハ東京ノ北方十里位ノ處）ニ依リテ活動ノ勢力ハ消耗セラレ、近ク再ビ大地震ヲ起スベキ餘力ナキコトハ、一般ニ認メラレテ居ル所デアル。

又今回ノ大地震ハ我太平洋側ニ於テ海岸線ニ略ボ竝行スル大地震帶ニ屬スルモノデアルガ、其ノ北東延長部上ニ於テハ、元祿十六年十一月二十三日安房上總ノ東南海底ニ起ツタ大地震ガアリ、又西方延長部上ニハ安政元年十一月四日伊豆下田ニ大地震津浪ヲ起シタ駿河沖ノ大地震ガアツタ、今回ノハ前記二者ノ中間ニアル空隙ヲ埋メタ譯デアル、サウシテ此帶狀ノ更ニ遠ク隔ツタ延長部上ニ於テハ、北東ノ方デハ本年六月二日ノ常陸沖地震、西ノ方デハ安政元年十一月五日ノ紀伊沖大地震抔ガアツテ、大抵勢力モ消耗セラレタ樣ニモ見エルシ、又假令一歩ヲ讓ツテ、餘力ガ尙ホ存在スルトシテモ東京カラノ距離ガ遠クナル爲、無害トナルコト、去ル六月二日ノ地震ニ於テ經驗シタ通リデアル。

右ノ如キ理由ニ依リテ、今後ハ大地震無カルベシトノ結論ヲ生ズル譯デアル。此ノ結論ダケハ第一回ノ發表ニ於テ述ベテ置イタガ、自分ハ此所信ヲ實行シテ、家族ハ最初カラ自宅屋内ニ休マセ、一回モ野宿サセタコトハ無イ。

次ニ餘震ノコトヲ述ベルガ、餘震數ヲ最初カラ十二時間毎ニ區切ツテ計算シテ見ルト、第一半日百十四回以上、（此以上トハ最初ノ大地震後凡ソ十分位ノ缺陷ガアルカラデアル、）第二半日八十八回、第三半日六十回、第四半日四十七回デ、次第

ニ衰退ノ景況ガ明カデアル、右ハ各種ノ地震帶ニツキ區別シテ研究スベキモノデアラウガ、此ハ後ノ事トシテ、今日ハ以上ノ概報ニ止メテ置ク。(以下略ス。)

今村委員ハ右ノ報告書ヲ五十部程謄寫版ニ取リ、之ヲ警視總監、警保局長ヘ手交シ、サウシテ此等官憲ノ手ニヨリテ震災各地方ヘモ傳ヘルコトガ出來タ、今日カラ見レバ多クノ缺點ヲ備ヘテ居ルケレドモ、極度ナ恐怖時代ニ於テ、人心ヲ鎭靜セシメル爲メニハ、若干ノ効能ガアツタ樣デアル。

九月四日

東京帝國大學理學部地震學教室ニ、左ノ標札ヲ掲ゲ、室內ニ左記掲示ヲ出シタ。

震災豫防調査會分室

一、本分室ニ於テハ、今回ノ大地震ニ關シ、當面ノ急務ヲ處辨スルコトトス。

二、各委員ニ於テハ、此際『臨機調査ニ從事セラレ』、要件ヲ申出或ハ報告セラレンコトヲ望ム。

三、調査中、本會委員タルヲ表スル腕章ヲ帶ブル方、便利ト考フルニ付、御希望ノ委員ニハ之ヲ交付ス。

四、市內外竝ニ近縣ノ震災狀況ヲ知ランカ爲ニハ、警視廳內務省及臨時震災救護事務局ト連絡ヲ取ルヲ便利トスルニ依リ、昨三日夜之ヲ開始セリ。

五、當會事務員ハ、當分主トシテ右ノ連絡事務ニ鞅掌スルコト。

六、委員其ノ他ヨリノ申出及ヒ報告ノ要領ハ、別ニ記錄ニ留メ、室內ニ保存シ、任意閲覽ニ供ス。

大正十二年九月四日

震災豫防調査會會長事務取扱代理

九月五日　各委員ニ左ノ通牒ヲ發シタ。

(今村會長事務取扱代理名)

今回ノ大地震ニ關シテハ、當分、東京帝國大學地震學教室內ニ本會分室ヲ設ケ、當面ノ急要事務ヲ處辨スルコトニ定メ、各委員トノ連絡ヲ密接ナラシムルコトト致シマシタ。右御通知致シマス。

追記、臨機調査ニ從事セラレ度ク希望致シマス。

此日中村(清)委員大島ヨリ歸京セラレ、有益ナ調査資料ヲ提供セラレタ。

九月六日

今村委員ハ本會ヲ代表シ、陸地測量部長ニ面會シテ、震災地方ノ水準測量ヲ至急施行セラレタキコト、又海軍次官ニ面會シテ震災地方ニ接セル海洋ノ水深測量ヲ至急實施セラレタキ旨懇請シ、何レモ快諾ヲ與ヘラレタ。

九月八日

今村委員ハ大震調査ニツキ、次ノ通リ第三回發表ヲナシタ。

餘震ハ順調ニ鎭靜シツヽアリ、今後大震ヲ危惧スル理由絕對ニ之レナキコト、第二回ニ於テ詳說シタ通リデアル。其後餘震ノ重ナルモノニツキ震原ヲ調査シ大地震ノ起震帶ヲ推定スル材料ニシタ、卽チ次ノ通リデアル。

(一)一日午後零時四十分、距離十八里、全振幅一寸三分。

(二)同　午後零時四十八分、距離二十三里、全振幅九分。

以上ノ二震ハ大地震ノ餘動尙ホ盛ンナ時ニ起ツタノデ、大學ダケノ觀測デハ震原ノ推定困難デアル。

(三)同　午後二時三十二分、震原ノ方向南々西、距離二十三里、全振幅七分。

(四)二日午前十一時四十八分、震原ノ方向南微東、距離三十一里、全振幅二寸三分。

(震動週期緩漫ナ爲、割合ニ强クナカツタ。)

(五)同　午後二時十二分、震原ノ方向南東、距離十里、全振幅五分。

(六)同　午後六時二十七分、震原ノ方向東南東、距離二十一里、全振幅一寸七分。

(七)同　午後十時三十九分、距離四十里、全振幅一寸六分、火山性式、震原ヲ三宅島附近ト推定ス。

以上ノ中(五)ト(七)トハ隣接シタ他ノ地震帶ガ刺戟セラレテ起ツタ地震デ、(五)ハ東京ニ近ク灣內ニ起ツタモノデアル。二日ト三日トニ其ノ同類ガ多ク起ツテ氣味惡ク感ゼラレタコト前ニ發表シタ通リデアル。今大震ト同系ノ餘震タル(三)(四)(六)ハ大震ヲ起セル地域卽チ地震帶ノ西、南、東、三方境界ニ近ク起ツタモノナルベク、(一)ハ北方境界ヲ指示スルモノラシク思ハレル、卽チ地震帶ハ前ニ發表シタ大地震ノ震原ヲ中心トシテ、概ネ房州ノ南端カラ伊豆東岸中央部近クマデ擴ガツタ細長キ地帶デアツテ、正ニ元祿地震ノ續キト見做スベキモノデアル。

大震ノ際伊豆ノ大島ニ居ラレタ中村淸二博士ハ、島內ヲ調査セラレテ被害ノ比較的ニ輕カツタコトヲ報ゼラレタ。此ハサモアルベキコトデ、大島ハ假令震原ニ近キモ、地震帶ノ地層カラハ獨立シタ鎔岩ノ丘デアツテ、謂ハヾ各村落ハ堅固ナ一枚岩ノ上ニ立ツテ居ル樣ナモノデアル、猶ホ同博士ノ齎ラシタ報告ニ依レバ、津浪ハ當初北ト南トカラ次第ニ押寄セ、丁度元村(伊豆ニ面シタ位置)ノ前面デ衝突シタトノコトデアルガ、此ハ丁度此衝突線ニ沿ヒ略ボ東西ニ走レル海底地帶ノ沈降ヲ暗示スルモノデハアルマイカ。前記餘震ノ中(二)ハ地震記象能ク最初ノ大地震ノモノニ似テ居ル。大地震ノモノハ主要部ノ初メニ於テ振幅三寸五分、週期一●五秒(震力ハ重力ノ十分ノ一)ノ邊デ外ヅレテ仕舞ツタガ(三)ニ依ツテ推測スルニ此後二倍程ノ振幅ノモノモ來タラシイガ、週期大ナル爲震力ハ却ツテ小サカツタニ相違ナイ。又右ノ震力カラ推測スルト、東京ノ下町ニテ地盤ノ特ニ弱キ場處ニ於ケル震力ハ、重力ノ四分ノ一ニ達シタデアラウ。

各地ノ震度ハ震原カラノ距離ニ支配サレルコト勿論デアルケレドモ、土地ノ硬軟ニヨルコト最モ著シク亦地形ニモ關係スル。震度最激ナリシハ湘南一帶ノ砂地デ、特ニ其レガ地震帶ニ正對シテ居ル關係モアル、小田原ハ三方ヲ堅キ地盤デ圍マレテ居ル關係上、震動ノ焦點ニナリ易ク、安房デハ北條館山ガ地盤殊ニ弱キタメ、震度ガ最大デアリ、其他ノ町村ハ地盤堅牢ナ爲メ三浦半島ト同樣ニ震原ニ近キモ震度次位ニアル、伊豆ノ東部モ亦同樣デアル、卽チ最激震區域ハ房總ノ鴨川、木

更津、東京ノ東北方ヲ東境トシ、ソレカラ伊豆ノ東部ヲ西境トシテ居ル。此震度分布ハ元祿地震ノ場合ト殆ンド吻合シテ居ルガ、唯少許ノ差違ハ安房ノ天津以東勝浦ニ至ル間ガ今回ハ輕カツタコトニアル、此ハ元祿地震ガ今度ノ地震ノ東北東ヘ續クコトニ歸著スル。

津浪ハ相模灘ノ沿岸、伊豆ノ下田、大島等ニ波及シ少許リノ船舶流失、家屋ノ床上又ハ床下浸水ノ程度ニ止マリ、唯熱海、初島、伊東、宇佐美、川奈、稻取等ニ於テ家屋ノ流失、破壞シタモノガイクラカアツタ。

此日、加藤委員竝ニ鈴木囑託員ニ靜岡、神奈川、千葉ノ各縣下ヘ出張ヲ命ジ、尙ホ之ニ對シ、要塞地帶內關係官衙ニ、地盤ノ變化ヲ發見ノ際ハ、其局部ヲ寫眞撮影ノ件許可セラレ度旨依賴狀ヲ携行セシメタ。

同日、房總半島南部及三浦半島土地隆起、伊豆大島竝ニ對岸稻取地方土地陷沒等ノ情報ニ依リ、其ノ詳細ナ狀況承知シ度キ旨、照會ト共ニ該地方沿海ノ水深測量方ノ依賴ヲ海軍水路部ニ發シタ。

右ニ對シ、當部ニ於テモ既ニ其ノ計畫アリ旁々御依賴ノ次第モアリ、可及的御希望ニ添フ樣取計可申、目下測量艦四隻及測量員ノ全力ヲ擧ゲ、本年末カ來年一月中旬頃迄ニ完了ノ豫定ヲ以テ、測量準備中云々ノ回答ガアツタ。

同日、前記同樣ノ照會ト共ニ該地方ノ內水準測量既成ノ場所ノ再測量方ノ依賴ヲ參謀本部陸地測量部ニ發シタ。

右ニ對シ、九月二十日以降ニ於テ房總半島ニ一個班、伊豆三浦半島ニ一個班ヲ出張セシメ、水準檢測實施豫定ノ旨回答ガアツタ。

九月十二日

第百七回委員會(大震災後第一回)ヲ地震學敎室ニ開イタ、出席委員十七名。今村委員ハ目下會長及幹事ノ事務ヲ代理處辨ノ旨、竝ニ今日迄ノ經過等ヲ述ベ、今後會トシテ取ルベキ方針ニ就キ協議致シタキ旨挨拶シタ、古市委員ハ座長ニ推サレタルモ、中村(精)委員ニ讓ラレ、種々懇談協議ノ末、調査ノ方法ヲ定ムルコトヲ左記委員ニ依託シ、更ニ明後十四日午後一時委員會開會ノコトトシテ散會。

調査方法ヲ定ムル特別委員、中村(清)、寺田、佐野、今村。

九月十三日

前日ノ委員會ニ於テ依託サレタ特別委員ハ地震學敎室ニ會合シテ打合セ、協定ノ上調査方法ノ原案ヲ作成シタ。出席委員ハ中村(清)、寺田、佐野、今村。

九月十四日

第百八回委員會(大震災後第二回)ヲ地震學敎室ニ開イタ、出席委員十五名。特別委員ノ作成ニ係ル調査方法ノ事項書刷物ヲ各員ニ配付シ、今村委員ヨリ、座長ハ前回同樣中村(精)委員ニ願フコト及ビ刷物トシテ配付シタル地震ニ起因スル火災調査事項ヲ說明シ、逐條審議ニ移ツタ。各委員ヨリ多少ノ修正意見及提案等アリ、尙調査上ノ分擔ヲ定メ、更ニ都市復興ニ關シ會ヨリ建議案ヲ出スコト及ビ之レガ調査起草特別委員ヲ選定スルコトヽナリ、又調査上ノ必要ニ依リ各首腦官衙

ニ交渉スベキ重要事件ハ委員古市男爵ヲ煩ハスコトニ協定シタ。協定セラレタ調査事項ノ概要左ノ通リ。

地震ニ起因スル火災ニ關スル調査事項

一、發　火

(イ)發火ノ場所、時刻

例ヘハ大震直後或ハ午後何時何分何區何町何番地何業何ノ誰等ノ如シ。

(ロ)發火ノ原因

化學材料、瓦斯、電氣、薪炭等（飛火ニ依ルモノハ「延燒」ノ項）

二、延　燒

(イ)延燒ノ經路

飛火ノ出所、時刻

窓、屋根瓦ノ脫落、壁ノ裂罅或ハ缺落、空天井ノ高熱墜落

(ロ)延燒ヲ助長シタルモノ

風、高厦、廣告塔、電柱

(ハ)延燒ヲ阻止シタルモノ

風、河川溝渠、公園、樹木、廣場、道路、崖、塀

三、鎭　火

(イ)鎭火ノ場所、時刻

(ロ)鎭火ノ原因

室內消防、街路消防、ヒキ倒シ、ポンプ、周圍ノ狀況

以上ハ調査方ヲ警視廳消防部ニ依賴スル事

尙ホ適當ナル人ノ指定ヲ乞ヒ、臨時委員トスル事

東京市水道課ニ調査依賴ノ事項

一、震災當時斷水ノ經路（特ニ時間的關係）

二、水道被害ノ狀況

三、發震當時水道課ニ於テ取ラレタル處置

尙ホ適當ナル人ノ指定ヲ乞ヒ、臨時委員トスル事

遞信省ニ調査方依賴ノ事項

一、漏電ニ依ル發火ノ件

二、震災當時電燈ニ對スル給電上ノ處置

三、發電所、變壓所、送電線等被害ノ狀況

四、電柱等ノ如キ通信機關ノ火災狀況

尙ホ適當ナル人ノ指定ヲ乞ヒ、臨時委員トスル事

農商務省ニ調査依賴ノ事項

一、瓦斯ニ因ル發火並ニ延燒ノ件

二、瓦斯供給設備被害ノ件

右調査ニ就テハ農商務大臣ニ交渉シ、瓦斯監督官ヲシテ之ヲ擔任セシムル事

文部省ニ臨時調査費請求ノ件

臨時調査費合計金貳萬五千六百圓

內　譯

旅　費（調査ノ爲出張旅費）	五千圓	
諸　給（調査員手當）	六千圓	
消耗品費	壹千圓	
印刷費（報告書等）	壹萬圓	
雜　費（自動車費等）	參千六百圓	

右ハ期間ヲ三ケ月トシテ見積ル

(右ノ中印刷費ヲ除キ、他ハ本年度ニ於テ許可セラレ、印刷費ハ大正十三年度ニ於テ許可セラレタ)

内務省土木局ニ調査方依頼事項

今回ノ大地震ニ就キ東京府並ニ近縣市町村ニ於ケル鐵道以外ノ土木工事ニ關スル損害狀況

大震ニ關スル調査委員分擔

一、地震觀測ニ關スル件

今村、志田、中村(左)ノ各委員

二、地變ニ關スル件

井上、加藤ノ各委員

三、氣象ニ關スル件

岡田、寺田ノ各委員

四、建築ニ關スル件

曾禰、佐野、内田、竹内、堀越、笠原ノ各委員(後ニ柴垣委員加入)

五、鐵道ニ關スル件

那波委員

六、河川、建築、道路、橋梁等、鐵道以外ノ土木工事ニ關スル件

物部委員、(後ニ原田委員加入)

七、地震ニ起因スル火災ニ關スル件

今村、寺田ノ各委員、(後ニ中村(清)、緒方、片山、大島、澁澤、田島各委員加入)

八、各種ノ公報私報新聞記事等ヲ蒐集整理スル件

今村委員

九、死傷ニ關スル件

竹内委員

十、機關工場ニ關スル件

末廣委員、(後ニ竹中委員加入)

右ノ外都市復興ニ關スル建議案作成特別委員ハ左ノ通リ

今村、中村(左)、井上、岡田、中村(清)、物部、佐野、内田ノ各委員

此日左記各縣知事ニ對シ左ノ照會ヲ發シタ。

埼玉、千葉、神奈川、靜岡、山梨、茨城、栃木、群馬、長野、(後ニ東京府知事、東京市長ヲ加フ)

去ル九月一日大地震ニ就キ貴管下左記事項承知致度及御依頼候也。

記

一、各市町村別現在戸數、被害家屋數(住家、非住家、全壞、半壞、燒失ニ區別スルコト)

一、死傷者數

一、土木工事事故、地變等

以上

九月十五日

前日委員會ノ協定ニ基キ、大正十二年度臨時調査費要求書ヲ作成シ、文部大臣ニ進達ノ手續ヲ爲シタ、其ノ說明左ノ通リ。

今回ノ大地震ハ稀有ノ慘害ヲ生ジ、帝都ノ大半ヲ烏有ニ歸セシメタルハ、實ニ痛歎措カザル所ナリ。本會ハ常ニ地震、津浪、

噴火ニ對シ、其原因、經過及結果ヲ調査研究スルノ外、此等變動ニ對スル災害ノ程度ヲ輕減センコトニ研究調査ヲ進メ來リ、隨時其ノ所見ヲ發表シタリシモ、尙ホ研究調査ノ途ニ在リテ、完全ノ域ニ進マズ、而モ文化ハ年ト共ニ劇變シ、從テ住宅ノ構造設備モ亦其ノ趣ヲ異ニシ、電氣、瓦斯ノ應用、給水ノ關係等、研究ノ範圍廣汎トナリタリ、而シテ此ノ大地震ノ爲メ被リシ損害ニ對シテハ、其ノ原因經過及結果等、至急調査研究ヲ要スルモノ多大ナリ、此ノ調査研究ノ資料タルヤ、一日ヲ遲ルレバ一日ノ眞價ヲ失ハンコトヲ恐ル。而シテ此ノ調査研究ノ結果タル、獨リ學術的ノ貢獻タルノミナラズ、將來、大ニシテハ都市復興ノ經營上ニ對スル基礎知識トナリ、小ニシテハ個人住宅ノ構造設備等ニ對シ、慘害輕減ノ方策ニ資スベキコトノ極メテ大ナルヲ信ジテ疑ハザル所ナリトス。依テ、急速ニ調査研究ニ從事セントスルモ、從來ノ經費豫算ニテハ到底其ノ調査ノ歩ヲ進ムルコト能ハザルヲ以テ、茲ニ特ニ臨時調査費ヲ要求スル所以ナリ。

（金額內譯共協定ノ通）更ニ左ノ說明補足ヲ附シタ。

地震ニ對スル災害豫防問題、特ニ耐震的ノ建築及土木工事ニ就テハ、本會ノ調査ガ是迄世ニ裨益ヲ與ヘタ事ハ、年報ニ明記シタル通リデアリ、又地震豫知問題ニ對シテハ、研究ガ未ダ期待スル通リ進ンデ居ラヌケレドモ、是レトテモ、大地震ノ場所ニ關スル豫知問題ノ如キニ就テハ、相當ノ成果ヲ收メテ居ル事、是亦年報ニ示シタ通リデアル。特ニ地震ニ伴フ火災ノ最モ恐ルベキコトハ、機會アル每ニ、本會ノ唱導シタ所デアッテ、餘リ大シタ地震デナクトモ、一寸シタ强イ地震ノ際デモ、水道鐵管ガ破損ノ爲メ消防ノ用ヲナサヌ故、之レガ施設ニ就テ改良ヲ加ヘナケレバナラヌ事ハ、當局竝社會ニ對シテ再三再四、ツマリ、各地方ニ地震ガ突發シタ機會每ニ警告ヲ發シタ次第デアル。特ニ西洋文化ノ輸入ノ結果、發火ノ原因ガ、去ル明治三十九年ノ桑港地震ニ於テ經驗セラレタ事ニ鑑ミ、電氣、瓦斯、特ニ化學材料ニ迄及ブベキ事モ、本會ノ調査報告ニ依テ指摘サレタ所デアル。唯此等ノ結果ガ餘リ世ニ重ンゼラレズシテ今日ニ至ッタノハ、誠ニ遺憾ナ次第デ、春秋ノ筆法ヲ以テスレバ、今度ノ災厄ノ大部分ハ、社會ガ震災豫防調査會ノ獻言ヲ用ヒナカッタ爲、自ラ招イタモノトモ言ヘルデアラウ、既往ハ追フベカラズ、再ビ斯ンナ大地震ガアッテモ、アンナ災厄カラ免レル樣ニシナケレバナラナイ、サレバ今回ノ地震火災ヲ資料トシテ、各方面ニ涉リ、徹底的ノ研究ヲナス事ハ、今日ニ於テ最モ切實ナル事デアルガ、之ヲ爲シ得ルモノ本調査會ヲ措イテ外ニアルマイト思フ。是レ實ニ政府ガ本調査會ヲ濃尾大地震ノ苦キ經驗ニ依テ、設立シタル趣旨デアッテ、斯クスル事ガ會ノ使命デアル。本調査會ハ別紙ノ通リ（委員會協定分擔）部署ヲ定メ、研究資料ノ湮滅セザル中ニト焦慮シテ居ルケレドモ、資金不足ノ爲、十分ノ活躍モ出來ヌ次第デ、是卽チ臨時費ヲ要求スル所以デアル。

此日、尙ホ左記ノ通リ要所ニ照會ヲ發シタ。

內務大臣宛

今回ノ大地震ニ就キ、東京府下竝ニ近縣市町村ニ於ケル、

鐵道以外ノ土木工事ノ損害狀況調査方ヲ貴省土木局ニ依頼致度ニ付、御承認相成度候也。

遞信大臣宛

今回ノ大地震ニ就キ、左記事項（委員會協定事項列記）調査方ヲ貴省電氣局ニ依頼致度ニ付、御承認相成度候也。

農商務大臣宛

今回ノ大地震ニ就キ、左記事項（委員會協定事項列記）至急調査ノ必要有之候ニ付、貴省瓦斯監督官ニ調査方ヲ擔任セシメラレ、其ノ御報告ヲ得度、及御依頼候也。

警視總監宛

今回ノ大地震ニ就キ、左記事項（委員會協定事項列記）調査方ヲ貴廳消防部ニ依頼致度ニ付、御承認相成度候也。

東京市長宛

今回ノ大地震ニ就キ、左記事項（委員會協定事項列記）調査方ヲ貴市水道課ニ依頼致度ニ付、御承認相成度候也。

以上ニ對シ、更ニ古市委員ヲ煩ハシ、直接交渉ノ上、何レモ其ノ承諾ヲ得タ。

同日各測候所宛、九月一日大震ノ地動計記象借用方ニ關シ依頼狀ヲ發シタガ、右ハ此機會ニ於テハ目的ヲ達スルコトガ出來ナカツタ。

九月十九日

現在本會委員ハ小藤文次郎、田中館愛橘、田邊朔郎、長岡半太郎、大森房吉、巨智部忠承、中村精男、男爵古市公威、曾禰達藏、山崎直方、柴田畦作、中村清二、井上禧之助、今村明恒、田丸卓郎、寺田寅彦、佐野利器、志田順、大石和三郎、內田祥三、那波光雄、末廣恭二、岡田武松、物部長穗、內藤多仲ノ二十五名 臨時委員ハ諸戸北郎、堀越三郎、中村左衛門太郎、加藤武夫、笠原敏郎、竹內六藏ノ六名デアルガ、今回大地震調査上ノ必要ニヨリテ

內務技監原田貞介、東京帝國大學教授片山正夫、遞信技師澁澤元治、文都技師柴垣鼎太郎、東京帝國大學教授大島義清、警視廳消防部長緒方惟一郎、東京帝國大學助教授竹中二郎、東京市助役田島勝太郎ノ八名ガ臨時委員ニ增員セラレルコトニナツタ。

尙ホ震災前ニ於ケル囑託員ハ東京帝國大學助手保田柱二以下二十二名デアツタガ、震後ノ必要ニ依リ、池田徹郎、松澤武雄、那須信治、小幡彦一（以上地震關係）鈴木醇（地質關係）永田悉郎、尾崎久助、井上一之、北澤五郎、佐藤好、土居松市、田中大作（以上建築關係）外土木關係等ニ於テ若干計十五名ヲ囑託シタ。

九月二十一日

本會事務所保管ノ官廳用無線電信受信施設檢定證書ハ全部九月一日ノ大地震火災ニ依リ燒失ノ旨關係アル遞信局ヘ屆書ヲ發シタ。

九月二十七日

帝都復興ニ關スル注意事項案ヲ作成スル便宜ヲ計リ、起草特別委員中、中村(清)委員ト今村委員ト協議ノ上試ミニ起稿シタモノヲ各特別委員ニ送付シ、意見記入返還ヲ求メ、尙ホ各員ノ意見ヲ綜合シテ原案作成方ヲ兩委員ニ委任セラレ度キ旨

ヲ付シ書面上ノ協議ヲ爲シタ。

九月二十八日

千葉縣知事（後ニ同縣下各郡長及ビ神奈川、埼玉、茨城三縣下各郡長追加）ニ左ノ依頼ヲ爲シタ。

一火災地方ヨリ飛來落下セルト認メラルヘキ物品ノ名稱、落下ノ位置、其ノ大サ、其ノ狀態（完全、半燒等ノ如キ）、落下若シクハ發見ノ日時。

右ハ地震ト火災トノ關係調査上入用ニ付、可成的詳細ニ報告セラレル樣、尙又該物品ハ將來有益ナル參考資料デアラウカラ適當ナ保存方ヲ講ゼラレル樣申添ヘタ。

九月三十日

北海道長官、大阪府知事及千葉、茨城、岩手、青森、靜岡、福島、德島、高知、大分、宮崎、鹿兒島、沖繩ノ各縣知事等ニ左記津浪ニ關スル依頼狀ヲ發シタ。

一、九月一日午後ニ於ケル潮候異狀報告方。

二、海岸附近ニ於ケル井水ノ異狀報告方。

三、驗潮儀ノ設備アラバ九月一日分ノ記象寫シ寄贈方。

十月二日

横須賀鎭守府司令長官宛、大震前カラ九月末日迄ノ驗潮儀記象寫シ寄贈方ノ依頼狀ヲ發シタ。

十月五日

第百九回委員會ヲ地震學教室ニ開イタ、出席委員二十三名、囑託員若干名。中村（精）委員座長席ニ著キ、今村委員ヨリ三菱合資會社カラ寄贈ノ件ヲ報告シ、次ニ本日ノ主要案タル都市復興ニ關スル注意書作成案ニツキ審議シタガ、夜二更ニ至ルモ議了スルニ至ラズ、更ニ特別委員ニ附託シテ再議スルコトニシタ。

十月九日

東京及横濱ニ於ケル內務省土木出張所ニ大震ノ際ニ於ケル驗潮儀記象寫シ寄贈方ヲ依頼シタ。

十月十三日

本會所屬電話架空線燒失復舊修繕費二、九七八圓要求書ヲ文部省ニ提出シタ。（此分ハ文部省ト協定シ大正十三年三月末日完成）

十月十五日

三菱合資會社ヨリ調査費五千圓寄附申込アリ、文部大臣ニ進達シタ。（此分ハ後ニ物品寄附ノ事ニ協議アリ假受領ノ事トス）

十月十六日

東京府知事及千葉、埼玉、神奈川、靜岡各縣知事ニ左ノ家屋構造又ハ修繕ニ關スル注意事項書ヲ送付シタ、題目左ノ通リ。

一、震害家屋ノ修繕ニ就テノ注意（本會報告第六號登載）

一、秋田縣下ニ關スル耐震上家屋構造ノ注意（本會報告第十一號ニ登載分）

一、木造耐震家屋構造要領（本會報告第十三號登載）

一、滋賀、岐阜兩縣下震後ノ家屋構造注意（明治四十二年十月滋賀、岐阜兩縣ニ送付シタル注意書）

一、鹿兒島縣下ニ關スル耐震上家屋構造ノ注意（大正三年四月十一日縣知事ニ送付シ官報ニ登載）

以上

十月十九日

都市復興計畫ニ關スル注意事項原案作成委員ノ意見ヲ綜合

シタルモノヲ印刷ニ付シ、該特別委員ニ配付シ、更ニ意見ヲ求メタ。

十月二十九日

第百十回委員會ヲ地震學教室ニ開イタ。出席委員二十五名、囑託員若干名。

中村(精)委員座長席ニ著キ、特別委員ニ依リテ修正セラレタ都市復興ニ關スル注意書ヲ可決シ、之ヲ主務大臣、內務大臣、復興局總裁ニ進達スルコトニシタ、右注意書ノ全文ハ次ノ通リデアル。

政府曩ニ濃尾大震災ノ慘事ニ鑑ミテ本會ヲ設立シ地震、建築土木、地質、物理、機械其他ノ專門ニ關スル堪能ノ人士ヲ萃メテ其委員トシ以テ斯ノ如キ大地震ノ再襲ヲ蒙リテモ斯ノ如キ災害ヨリ免ルベキ施設方法ノ調査研究ヲ命ジタリ爾來三十年本會ハ地震動ノ性質ヲ闡明シ地震ト地質トノ關係ヲ調査シテ建築及ビ土木工事ノ耐震的方法ニ成果ヲ收メタリ但地震ノ時ニ關スル豫知問題ニ對シテハ未ダ期待ノ目的ヲ達セザルモ場處ニ關スル豫知問題ニ就テハ吾人ヲシテ既ニ其ノ解決ノ曙光ヲ認メシメタリト稱シテ可ナランカ此等研究及ビ調査ノ成績ハ浩瀚ナル報告書ニヨリテ之ヲ發表セリ又各地ニ大地震アルトキ本會ハ每ニ調査員ヲ派遣シ或ハ地震ニ對スル正確ナル知識ヲ與ヘテ民心ノ不安ヲ除キ建築修繕方法ヲ指示シテ災厄ヲ輕カラシメ特ニ大地震ニ伴ヘル火災ノ恐ルベキ所以ノモノ、西洋文化ノ輸入ニ伴ヒ電氣、瓦斯、化學材料ニヨリテ發火原因ノ增加シタル所以ノモノ、現在ノ水道工事ハ地震ノ際破損シテ其用ヲナサヾル所以ノモノニ鑑ミ、屢〻當局ニ警告シ社會ノ注意ヲ促セリ、唯此獻言未ダ用ヒラレザルニ先タツテ今回ノ大災厄ニ遭ヘリ本會ノ遺憾何物カ之ニ加ヘン既往ハ追フ可カラズ要ハ前車ノ覆轍ヲ蹈マザルニアリ本會ハ帝都ニ於ケル今回ノ災厄ノ主トシテ火災ニ基ツケルコトニ想到シ本會委員トシテ更ニ化學、電氣、瓦斯、水道及ビ消防ニ關スル達識ノ士ヲ加ヘ又陸地測量部、海軍水路部ニ對シテ沿岸ノ水準竝ニ海底ノ變化ヲ精査センコトヲ依賴シ著々調査ノ步ヲ進メツヽアリ特ニ帝都復興計畫ニツキテハ最モ價値アル參考資料ヲ得ンコトヲ期ス今其結果ヲ擧グルニ先ダチ帝都復興計畫ニツキ考慮スベキ諸要目ヲ列擧シ以テ當事者ノ注意ヲ促ス所アラントス。

一、今回ノ大震火災ニ於テ在來ノ耐震構造ノ或ルモノハ耐火ノ性質ヲ缺キ耐火構造ノ多クハ其耐火性ヲ失ヒタル實例ニ鑑ミ此際耐震火構造卽チ大地震ニ遭遇シテ能ク之ニ耐ヘ又其ノ後ト雖モ依然トシテ耐火性ヲ失ハザル家屋橋梁等ノ構造ニツキ其ノ基準ヲ定メ土地ノ狀況ニ應ジテ其ノ實施ヲ强制スルコト

二、耐震若シクハ耐震火タルヲ要スル建築土木工事等ハ其場處ニ於テ將來起リ得ベシト推測セラルヽ地震破壞力ノ最大限ニ耐フル樣築造スベキコト

耐震タルヲ强制スベキ築造物ノ種類左ノ如シ

上下水道、貯水池溝渠、鐵道及ビ軌道

耐震火タルヲ强制スベキ築造物ノ種類左ノ如シ

防火地區防火線ニ於ケル建築、上水道ニ於ケル喞筒場及ビ之ニ附屬スル諸設備、交通、運輸、通信等ニ關シ重要ナル公共建築、學校工場等ノ如キ多衆ノ集合スル建築物橋梁及ビ鋪裝

三、耐震タルヲ要スル地下埋設工事ニ就テハ柔軟ナル土地ノ搖リ下リ、異質ノ土地ノ震動不同等ニ歸因スル影響ヲ專ラ顧慮スルコト

四、地震ノ際發火ノ原因トナルベキ化學藥品ニツキ其ノ取扱方及ビ保管法ニ關スル施設並ニ臨機處置法ヲ定ムルコト

地震ノ際發火ノ原因トナルベキ電氣、瓦斯、爐火等ニツキ取扱方並ニ臨機處置法ヲ定ムルコト

火災ヲ助長スベキ化學藥品及ビ化學製品類ノ製造、貯藏並ニ販賣ニ關スル取締規定ヲ定ムルコト

燃料ノ製造、貯藏並ニ販賣ニ關スル取締規定ヲ定ムルコト

五、大震災ニ際シ電氣ノ供給ヲ停止スルコトナキ又ハ已ムヲ得ズ停止スルモ速ニ供給ヲ復シ得ベキ發電所、變電所、電線路、屋內工作物ノ構造並ニ施設方法等ヲ調査シ之ヲ實施セシムルコト

六、消防用ノ水利ヲ興スコト例ヘバ水流ヲ引キテ之ヲ公園又ハ大道路ニ配置シ或ハ潮水ヲ堰キ止メテ之ヲ溝渠ニ貯ヘ或ハ消火專用ノ貯水池ヲ設ケ又井戸ノ保存並ニ新設ヲ奬勵スルコト

現在消防ニ使用シ難キ流止水ニ就テハ其利用ノ途ヲ開クコト例ヘバ消火車ノ之ニ接近シ得ル道路ヲ設クルガ如シ

七、上水道當局ニ於テハ消火ニ使用シ得ベキ水量ニツキ考慮シ成ル可ク多量ヲ之ニ充テ得ル樣定メ置クコト

八、自働消火機ノ配備及ビ之ニ要スル燃料ノ貯藏ヲ十分ニシ震災時ニ於ケル消火力ヲ充實スルコト

九、延燒ヲ助長スベキ築造物例ヘバ高キ建物又ハ屋上ニ於ケル可燃性構造ノ如キモノノ取締ヲ嚴ニスルコト

十、地下鐵道ト高架鐵道トノ選擇及構造ニ關シテハ地質、地勢、震度ノ分布、震害ニ伴フ停電及ビ水底部ノ浸水ニ依ル危險、震害復舊ノ難易、土地ノ利用、都市ノ美觀、耐火並ニ防火效力等ヲ愼重ニ考慮スベキコト

十一、震災時ニ於ケル防火避難ノ困難ニ鑑ミ風力、風向等ニ關スル風ノ習性、防火ニ適スル樹木ノ種類等ヲ顧慮シ大道路、水路、貯水池、公園ヲ適當ニ配置施設スルコト

十二、大震災ニ際シ都市ト外界トノ通信ヲ杜絕セザル策ヲ講ズルコト例ヘバ無線電信電話ノ裝置ハ耐震火工作物ヲ以テ之ヲ保護シ其ノ原動機ニハ「ガソリン」發動機ヲ用フルガ如シ

十三、地震並ニ之ニ歸因スル火災ニ對シ市民ノ訓練ヲ奬ムルコト

備考

右ノ中一乃至五ハ之ニ關スル事項ヲ本會委員中ニ於テ引續キ調査研究セルモノアリ詳細ナル報告ヲ提供センコトヲ期ス

次ニ各委員ノ調査事項ニツキ左ノ通リ報告演述ガアツタ。

一、市街地燒跡ニ設ケタ臨時地震觀測點ニ於ケル比較觀測ノ結果　今村委員
一、相摸伊豆房總沿岸ノ地變調査　加藤臨時委員
一、同　上　井上委員
一、震災地方ノ斷層線ニ就イテ　山崎委員
一、東京、横濱、小田原等ニ於テ大火災ノ際ニ起ツタ旋風ニ關スル調査　寺田委員
一、鐵骨建築ノ震災ニ就イテ　內藤委員
一、丸ノ內ビルヂングノ振動ニ就テ　堀越臨時委員
一、鐵道ノ破壞狀態ニ就イテ　那波委員
一、東京大火災ノ火流動態ニ就イテ　中村(清)委員
一、火災ノ原因ニツキ化學藥品ノ調査竝ニ學校研究所等ニ於ケル此種藥品ノ保管方法　大島、片山臨時委員　澁澤臨時委員
一、電氣裝置ノ震災竝ニ發火原因　竹中臨時委員
一、機關工場ノ震災ニ就イテ

右ノ中、片山大島臨時委員報告ハ別ニ文書ヲ以テ提出セラレタノデアルガ(其全文ハ本報告戊ノ部ニ載セルコトニナツタ)、該問題ハ之ヲ全國ノ諸學校ヤ研究所ニ了解セシムルコトガ、最モ必要デ而モ緊急ヲ要スルコトデアルトイフニ衆議一決シ、文部當局ヲ經由シテ管下ノ諸學校研究所ニ普ク通達セシムルノミナラズ、文部省以外ノ各省管下ニモ同樣通達セシムル手段ヲ取ルコトニシ、事務員ニ於テ其手續ヲ履行シタ。

十一月三日

大森委員會長ヲ今村委員幹事ヲ仰付ラル、是ヨリ先、大森委員ハ汎太平洋學術會議參列中病ヲ得、歸朝療養中ノ處、此月八日終ニ薨去セラレタ。

十一月二十六日

第百十一回委員會ヲ地震學教室ニ開イタ。出席委員二十九名囑託員若干名デアツタ。中村(精)委員座長席ニ著キ、本會ガ今後取ルベキ調査方針ニツイテ議シ、結局從來ノ調査事業ニ加フルニ、更ニ擴張調査計畫ヲナス意味ニ於テ、計畫案作成特別委員ヲ設クルコトトシ、該委員ハ座長指名ニヨリ、左ノ通リ決定シタ。

古市委員、井上委員、今村委員、寺田委員、志田委員、末廣委員、岡田委員、物部委員、內藤委員、中村(左)委員。

次ニ前回ニ引續キ、今回ノ震災ニ關スル特別調査委員カラ、左記ノ通リ報告演述ガアツタ。

一、横濱ニ於ケル港灣ノ破壞狀態ニツキテ　原田臨時委員
一、建造物中地震ノ上下動ヲ考慮セザル耐震構造ハ效力少ナカリシコト等ニ就キテ　物部委員
一、煙突ノ破壞狀態ニツキテ理論的攻究　末廣委員
一、今回ノ大震ニ因ル海底電線破壞箇所及其狀態　澁澤臨時委員
一、山手及下町ニ於ケル煉瓦建築震害ノ比較統計狀況　佐藤囑託員
一、市內工場混凝土建築物震害ノ統計狀況　永田囑託員

尙前記特別委員ハ數回ノ熟議ヲ重ネテ原案ヲ作成シ、各委

員ノ承認ヲ得タ、是レ卽チ本會今後ノ調査計畫ニツキ各委員ノ理想トモ見ルベキモノデアル、案ノ概要ハ次ノ通リデアル。

第一條　震災豫防調査會ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ震災豫防ニ關スル事項ヲ攻究シ其施行方法ヲ審議ス

第二條　震災豫防調査會ニ總務部及本部、東部、西部ノ各研究所ヲ置ク

總務部及本部研究所ヲ東京ニ東部研究所ヲ關東ニ西部研究所ヲ關西ニ設定ス

第三條　總務部ハ會ノ事務ヲ總括シ各研究所ヲ統督ス

第四條　本部研究所ハ總務部ニ附設シ左ノ事項ヲ攻究ス

一、地震ノ理論統計實驗的事項

二、地震計測、器械ノ改良

三、耐震火構造、都市地盤ノ關係的震度、構造物ト地盤トノ關係等地震ノ應用的事項

第五條　東部研究所ハ左ノ事項ヲ攻究ス

一、地震ノ特殊精密觀測調査

二、大地震前後ニ於ケル特殊ノ自然現象

第六條　西部研究所ハ左ノ事項ヲ攻究ス

一、地震ノ特殊精密觀測調査

二、大地震前後ニ於ケル特殊ノ自然現象

三、都市地盤ノ關係震度、構造物ト地盤トノ關係等地震ノ應用的事項

第七條　震災豫防調査會ニ左ノ職員ヲ置ク

一、會長

二、幹事

三、評議員

四、研究所長

五、技師　專任

六、事務官

七、技手　專任

八、書記　專任

第八條　會長ハ評議員會ノ推薦ニヨリ勅旨ヲ以テ之ヲ命ス

評議員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ文部大臣ノ奏請ニヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ評議員ノ中ヨリ文部大臣ノ奏請ニヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

研究所長ハ技師ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補任ス

第九條　會長ハ會務ヲ總理シ評議員會ノ議長トナリ且研究事項ノ綱目ヲ定ム

第十條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ總務部ノ庶務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十一條　評議員ハ會長ノ召集ニ應シ議案ヲ審議ス

第十二條　研究所長ハ當該研究所ノ所務ヲ掌理シ研究事項ニ付キテハ意見ヲ具シテ會長ニ稟議ス

第十三條　技師ハ當該研究所長ノ指揮ヲ承ケ觀測實驗研究ヲ掌ル

第十四條　事務官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ本部研究所ノ庶務ヲ掌ル

第十五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ實驗、觀測ニ從事ス
第十六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十七條　東部及西部ノ研究所ニ附屬觀測所ヲ置ク
附屬觀測所長ハ技師ヲ以テ之ニ充テ技手ヲ配置ス
第十八條　附屬觀測所長ハ所屬研究所長ノ指揮監督ヲ承ケ當該觀測所ノ所務ヲ掌ル

職員

總務部
會長　一人
幹事　一人
評議員　三五人
書記　二人
（以上名譽職）

本部研究所
所長（技師）　一人
事務官　一人
書記　四人
技手　二人

第一部　地震ノ理論、統計、實驗的事項攻究
技師　四人
技手　四人

第二部　地震計測、器械ノ改良、檢査
技師　二人
技手　二人

第三部　建築材料及構造ノ耐震火研究
構造物ノ振動ト地震動トノ關係研究
地質ト震度トノ關係研究
技師　八人
技手　十二人
計

東部研究所
所長（技師）　一人
技師　二人
技手　四人
附屬觀測所（四ヶ處計）
技師　八人
技手　十六人
計

西部研究所
技師　十一人
技手　二十人
所長（技師）　一人
技師　四人
技手　八人
附屬觀測所（三ヶ處計）
技師　六人
技手　十二人
計

技師	十一人
技手	二十人
合計	
名譽職（會長一人、幹事一人、評議員三五人）	三十六人
技師	三十七人
事務官	一人
書記	六人
技手	六十人
經常費	
總務部及本部研究所	二七二、四〇〇円
東部研究所	二一六、〇五〇
西部研究所	二一六、〇五〇
合計	七〇四、五〇〇
臨時費	
總務部及本部研究所	八〇〇、〇〇〇
東部研究所	一、八九五、九〇〇
西部研究所	一、五五六、三〇〇
合計	四、二五二、二〇〇

大正十三年二月二十三日

第百十二回委員會ヲ地震學教室ニ開イタ。出席委員十七名、囑託員若干名、外ニ復興院事務官等列席。

先ヅ佐野委員カラ現行建築法規改正ニ關スル説明ガアリ該改正ノ要目ハ次ノ樣ナモノニ關係シテ居ル旨ヲ述ベラレタ。

一、木造家屋ニ就テ

簷高ノ事、柱ノ太サノ事、筋違及方杖ノ事、屋根瓦ノ事

二、煉瓦造家屋ニ就テ

簷高ノ事、階數及高サノ事、壁ノ厚サノ事、ゲーブルノ事、防火壁ノ事、煙突ノ事

三、鐵筋及鐵骨混凝土構造ニ就テ

材料ノ事、張壁ノ事、柱ノ事、强度計算及地震ノ振度計算ノ事

四、防火地區ニ就テ

特種、一般的、官設道路ノ事

右ニ對シ質問應答及多少ノ意見ヲ述ベタモノモアツタガ、結局佐野委員ノ調査案ヲ基本トシテ本會ノ意見ヲ定メ提出スルコトトシ、左ノ特別調査委員ヲ選定シタ。

田丸、加藤、內田、內藤、堀越、物部、中村(左)、寺田、中村(淸)、大島、末廣、今村。

右ノ特別委員ハ數回ノ審議ヲ重ネテ成按ヲ得、各委員ノ承認ヲ經テ、之ヲ主務大臣ト內務大臣トニ進達シ、尙ホ一通ヲ復興局長官ニ送ツタ、按ノ內容ハ左ノ通リデアル。

震災豫防調査會意見書

一、建築物耐震上ノ計算ニ於ケル地震力ノ震度ハ之ヲ〇・四トスルコト

二、防火地區防火線ニ於ケル建築物ニ對シテ要求セラルル耐

火上ノ法規ハ平常ノ場合ニ於テハ從來ノ通リニテモ相當ノ效力アランモ大地震ニ伴フ場合ノ火災ニ對シテハ耐火能力ヲ一層高ムルコトヲ必要トス例ヘバ窓、床(床張)、天井、戸、階段ニ至ルマデ耐火物質タルコトトシ、特ニ防火線ニ於ケル外廻リ裝置ニ對シテハ之ヲ最モ嚴重ニ施行スルコト

三、煉瓦造煙突、石造又ハ煉瓦牆壁ハ之レカ建設ヲ禁スルコトトシ度シ

備考

右第一項ニ就テハ市街地建築物施行規則中改正省令案第百一條ノ二「強度計算ニ於ケル地震ノ水平震度ハ之ヲ○●一以上ト爲スヘシ但シ地方長官建築ノ種類又ハ土地ノ狀況ニヨリ其增加ヲ命シ又ハ低下ヲ許可スルコトヲ得」トアリ此中震度ヲ○●一以上トスル點ニ異議アリ此程度ハ稍〻低キニ過グルノ嫌アルヲ以テ之ヲ高ムルコトトセリ但シ建築家慣用ノ標準ニテ之ヲ修正スルヨリモ寧ロ地震學上慣用ノ震度ニテ現ハシ之ヲ○●四トスルコトニ改ムルヲ便利ト認メタリ

第三項本會委員中本項ニ對シ緩和ノ途ヲ講セントスル少數ノ反對意見者モアリタリ

四月十三日

本年度實行豫算ハ前年度ニ比シテ二分減ノ旨、當局カラノ通知ガアッタカラ、臨時議會ノ結果ヲ見ルマデ、本會ノ調査事業ヲ假リニ甲乙二類ニ大別シ、甲類ハ從前ノ調査事業、乙類ハ昨年ノ大地震ニ關聯セル調査事業デ他日ニ延期シ難イモノトシ、甲類中此際延期シ得ベキモノアラバ之レガ調査ヲ暫時見合セ、此費用ヲ乙類ノ調査費ニ廻スコトニ各委員ニ通知ヲ發送シタ

六月四日

前年度ニ倣ヒ、再ビ本會調査擴張計畫案ヲ提出シタ

十月十一日

第百十三回委員會ヲ東京帝國大學舊御殿ニ開イタ、出席委員二十三名、囑託員若干名。中村(精)委員座長席ニ著キ、初メニ幹事ヨリ寄附金ニ關スル件等ヲ報告シ、次ニ豫算配當、新調査事業、大震火災報告書編纂ニ關スルコトヲ議シタ、右ノ中特ニ記載スベキハ、震災地方ニ於ケル水準測量ヲ今一回至急施行シ、前回ノ結果ト比較スルコト、此爲メニ寄附者ノ同意ヲ得テ其寄附金ヲ此費用ニ充ツルコト、並ニ大震災報告書ハ和文第百號ヲ以テ之ニ充テ、別表ノ通リ五部門ニ分チ、各部門ニ小委員ヲ設ケ、成ルベク本年十一月限リ原稿ヲ纏メテ之ヲ幹事ニ提出スルコト等デアッタ。

次ニ左ノ通リ調査報告演述ガアッタ。

一、新案地震計ニ就キテ　田丸委員
一、最近ニ於ケル震災地方水準測量結果　大村臨時委員
一、新案ノ水銀製地震計ヲ以テ地ノ極微動ヲ觀測シタル件　末廣委員
一、氣象ト地震トノ關係　中村臨時委員
一、土地ノ震動性能調査　那須囑託員
一、地震記象調査結果　今村委員

尙ホ編纂分擔表ハ次ノ通リデアルガ、此ハ其後委員間デ協

定シテ、多少修正シタモノデアル。

部門	事項	分擔委員及寄稿者
甲	地震觀測、地震一般	志田、中村(左)、今村
乙	地理、地質、陸地海底ノ水準變更、津浪	小藤、井上、加藤、山崎、內田(虎)、大村、中村(清)、寺田、今村
丙	建築物	佐野、矢橋(官衙ノ分)
丁	建築物以外ノ工作物(水道、鐵道、電氣、機械其他ノ土木工事)	澁澤、物部、田島(後任者)、竹中、那波、末廣
戊	火災、化學藥品、樹木、旋風、瓦斯、電氣、火災ニ因ル死傷	緒方、中村(清)、大島、片山、諸戸、寺田、澁澤、竹內

震災調査ノ爲メ委員竝ニ囑託員ノ出張

委員及囑託員ノ大震災調査ニ關シ大正十二年度中出張ハ左ノ通リデアッタ。

東京府下及神奈川、靜岡、千葉ノ四縣下隨時出張　震災事項調査　通計三十日　今村委員

千葉、神奈川、靜岡三縣下、地質地變調査　計三週間　加藤委員

同　上、地質ト地變トノ關係調査　二週間　小藤委員

東京府及神奈川縣下、震災地調査　二週間　田邊委員

東京府下、震災地調査　十日間　志田委員

千葉、神奈川、靜岡三縣下土木工事ニ關スル震災調査　三週間　物部委員

神奈川、靜岡ノ兩縣下震災地構造物ノ被害調査　四日間　內藤委員

神奈川、千葉ノ兩縣下同　上　通計二十五日　堀越委員

同　上、震災地狀況調査　計三日　山崎委員

神奈川縣及千葉縣下同　上　三日　中村(清)委員

神奈川縣下　同　上　四日　田丸委員

同　上　同　上　三日　寺田委員

同　上　同　上　二日　竹中委員

千葉、神奈川、靜岡、愛知ノ四縣下地質地變調査　通計三十日　鈴木囑託

千葉、神奈川ノ兩縣下地震事項調査補助　通計六日　黑坂囑託

神奈川、靜岡、千葉ノ三縣下震災地津浪及地震事項調査　二週間　池田囑託

神奈川、山梨、靜岡、埼玉ノ四縣下地震事項調査補助　通計二十四日　小幡囑託

東京府下及千葉、神奈川、靜岡ノ三縣下震災地調査　三十日　松山囑託

同　上　三十日　依田囑託

東京府下及神奈川縣下、地震事項調査補助　九日　保田　囑託

神奈川縣下震災地損害狀況調査　三日　伊豫田　囑託

同　上震災調査補助　三日　岡本　囑託

同　上地震事項調査補助　一日　谷口　囑託